

第2期経営発達支援計画 令和3年度評価結果

令和4年9月
袋井商工会議所

- 評価の目的..... 1
- 第2期経営発達支援計画の進捗全般について..... 2
- 令和3年度伴走型小規模事業者支援推進事業評価まとめ..... 3
- 【事業ごとの評価シート】 4
- 1. 事業計画策定支援に関する..... 4
- 2. 事業策定後の実施支援に関する..... 5
- 3. 新たな需要の開拓に寄与する..... 6
- 4. 経営指導員等の支援能力向上等に関する..... 7
- 5. 経営発達支援事業の評価・見直しを行う事業に関する..... 8

○本評価は、小規模事業者の経営発達支援について取り組む内容を定めた「第2期経営発達支援計画」（以下「計画」という。）について、事業内容ごとに指標値や取組内容等の成果をできる限り客観的に評価（チェック）し、今後の方向性や取組内容等の見直し（業務改善）を行い、計画内に位置付ける事業をより効果・効率的に推進するために実施するもの。

○具体的には、計画の目的を達成するために、どのような事業のラインナップが必要か、あるいは、事業をどのような内容・方法とすることが最も有効であるか、などについて、本評価を通じ、自律的・継続的に考え、取組の精度を高めていくために実施する。

○本計画のうち、日商からの採択を受けて実施する「伴走型小規模事業者支援推進事業（商工会議所計画実行型事業）」（以下「推進事業」という。）で実施した補助金事業についてのみ評価の対象とした。

○計画事業内容体系

- 〔Ⅰ.経営発達支援事業の内容〕
- 2. 地域の経済動向調査に関すること
 - (1) 国が提供するビッグデータの活用 (2) 管内小規模事業者の景気動向等の把握
- 3. 経営状況の分析に関すること
 - (1) セミナー開催(ア)～(エ) 食品開発ブラッシュアップ支援事業、ものづくりドック等
 - (2) 経営分析の内容チェック
- 4. 事業計画策定支援に関すること
 - (1) 事業計画策定セミナーの開催 (2) 事業計画の策定
- 5. 事業計画策定後の実施支援に関すること (1) 経営指導員等によるフォローアップ
- 6. 需要動向調査に関すること (1) 展示会・商談会対応者に関するアンケート調査
- 7. 新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること
 - (1) 日本商工会議所feel NIPPON展示会 袋井商工会議所ブース出展
 - (2) 静岡県内15商工会議所合同個別商談会参加事業
 - (3) 静岡県よろず支援拠点との合同ミニ商談会
- 〔Ⅱ.地域経済の活性化に資する取組〕
- 8. 地域経済の活性化に資する取組に関すること
 - (1) 袋井商工会議所経営発達支援事業推進協議会の開催
 - (2) 袋井ブランド認定、まちゼミ、袋井市産学官連携推進協議会、ふくろい宣伝隊事業推進協議会、ふくろい遠州の花火実行委員会、どまんなか袋井まちづくり株式会社の事業
- 〔Ⅲ. 経営発達支援事業の円滑な実施に向けた支援力向上のための取組み〕
- 9. 他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換に関すること
- 10. 経営指導員等の資質向上等に関すること
- 11. 事業の評価及び見直しをするための仕組みに関すること

○計画における各年度ごとの伴走型小規模事業者支援推進事業実施内容

	R2	R3	R4	R5	R6
2. 地域の経済動向調査に関すること (1) 国が提供するビッグデータの活用 (2) 管内小規模事業者の景気動向等の把握			(○) (○)		(○) (○)
3. 経営状況の分析に関すること (1) セミナー開催(ア)～(エ) 食品開発ブラッシュアップ支援事業、ものづくりドック等 (2) 経営分析の内容チェック	○ ○	(○) (○)	(○) (○)	(○) (○)	(○) (○)
4. 事業計画策定支援に関すること (1) 事業計画策定セミナーの開催 (2) 事業計画の策定	○ ○	○ ○	(○) (○)	(○) (○)	(○) (○)
5. 事業計画策定後の実施支援に関すること (1) 経営指導員等によるフォローアップ	○	○	(○)	(○)	(○)
6. 需要動向調査に関すること (1) 展示会・商談会対応者に関するアンケート調査	○		(○)	(○)	(○)
7. 新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること (1) 日本商工会議所feel NIPPON展示会ブース出展 (2) 静岡県内15商工会議所合同個別商談会参加 (3) 静岡県よろず支援拠点との合同ミニ商談会	○	○ ○ ○	(○) (○) (○)	(○) (○) (○)	(○) (○) (○)
8. 地域経済の活性化に資する取組に関すること (1) 袋井商工会議所経営発達支援事業推進協議会 (2) 袋井ブランド認定、まちゼミ、袋井市産学官連携推進協議会、ふくろい宣伝隊事業推進協議会、ふくろい遠州の花火実行委員会等	○ ○	(○) (○)	(○) (○)	(○) (○)	(○) (○)
9. 他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換に関すること	○		(○)	(○)	(○)
10. 経営指導員等の資質向上等に関すること	○	○	(○)	(○)	(○)
11. 事業の評価及び見直しをするための仕組みに関すること	○	(参考)	(○)	(○)	(○)

○第1期～第2期経営発達支援計画事業結果の主な紹介

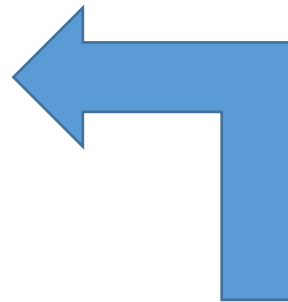


左から順に、日商feel NIPPON出展準備(2枚)、出店準備研修会、ものづくりドック、専門家個別相談、事業推進協議会(事業評価委員会)

(概ね順調)
3点



全体としては、当初に計画した事業を実施することが出来て、その成果も概ね順調に推移した。しかし、本年も新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、相談受付件数及び事業計画や手法の変更に移らざるを得ない状況となった取組みがあった。



[評価基準]

順調 (4点)



概ね順調 (3点)



一部改善 (2点)



要改善 (1点)



実施事業内容		評価	評価の理由
1	事業計画策定支援に関すること (ア) 登録専門家による個別相談会 (21回) の開催 (イ) 経営支援システム (BIZミル) の活用促進、商圈分析ソフト (マケプラ) の導入及び活用 (ウ) ものづくり企業の経営課題を解消する「ものづくりドック」開催、生産性の向上及び働き方改革達成事業 (ICT活用支援事業) 開催	3点 	<ul style="list-style-type: none"> 補助金申請の減額要請により、対象企業数を減らさざるを得なかったが、伴走型補助金事業の根幹をなす内容であり、参加した小規模企業からの成果に対する満足度や期待感は高いため、総合的に判断し「概ね順調」と評価した。 但し経営資源が限られている小規模事業者に可能な限り寄り添った事業とすることが求められることから一部改善の余地がある。
2	事業策定後の実施支援に関すること (ア) 登録専門家によるフォロー個別相談会 (20回) の開催	3点 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響を考慮はしなければならないが、個別相談会のあり方や本事業における財務データの進捗度の評価する基準が未整備で、経営課題が確実に解消されているか検証する必要があることから、一部改善の余地がある。 登録専門家による継続支援により、既存の経営課題の解消が図られ経営環境が改善されたほか、新たな経営課題が発掘されることで企業のあたらなる成長を促すことができたため、総合的に判断し「概ね順調」評価とした。
3	新たな需要の開拓に寄与すること (ア) 小規模事業者が参加する展示会・商談会の開催 ※R3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により事業企画及びその実施はなし。	1点 	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度の伴走型補助金事業としては、新型コロナウイルス感染症の拡大影響により、事業企画はしなかったが、過去に参加実績のある会員企業が国内大型展示会や商談会及びビジネスコンテストに参加した結果、上位入賞や海外にて販路開拓の機会を得た事例もあるなど、経営発達支援計画での目標とする新たな需要の開拓につながった実績があることから、定期的なイベントの開催やサポート強化体制の整備など、総合的に判断し「要改善」と評価したい。
4	経営指導員等の支援能力向上等に関すること (ア) 経営指導員等研修会の開催 (イ) 経営分析ソフト「BIZミル」及び市場分析ソフト「マケプラ」研修会の開催	3点 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の拡大影響により、補助金事業で従来実施してこなかった自前の職員向け研修を実施できる機会が創出され、これまで個人レベルでの自主研修に留まっていたICTリテラシーやデジタル技術の向上が図られた。また、オンラインを活用した友好提携先の商工会議所との交流も可能となり、総合的に判断し「概ね順調」と評価した。
5	経営発達支援事業の評価・見直しを行う事業に関すること (ア) 経営発達支援計画事業推進協議会の開催	参考	<ul style="list-style-type: none"> 袋井市総合計画の審査形式や関連書式を参考に、①第2期経営発達支援計画にうたっている各種事業の5か年推移の見える化、②単年度 (令和3年度) の伴走型小規模事業者支援推進事業補助金で実施された各計画事業の実施成果のチェック、③事業評価委員が評価しやすい体制の維持を今後も継続してまいりたい。

1. 事業計画策定支援に関すること

○事業内容

[(ア) 登録専門家による個別相談会 (21回)]

支援内容：中期経営計画の策定を中心に、経営課題を解消する各種計画内容立案・策定を当所登録専門家のアドバイスでサポートする。

[(イ) 経営支援システム (BIZミル) の活用促進、商圈分析ソフト「マケプラ」の導入及び活用]

支援内容：BIZミルは、過去の支援実績とその結果に基づく経営状況の把握が出来、マケプラは、競合店の立地分析や商圈範囲の推測等マーケット調査が可能となる。

[(ウ) ものづくり企業の経営課題を解消する「ものづくりドック」開催、生産性の向上及び働き方改革達成事業 (ICT活用支援事業) 開催]

支援内容：「ものづくりドック」では、地元精通したコンサルタント集団とのブレインストーミングにより、製造業における経営課題の抽出・明確化を行い解決策を提案する。「ICT活用支援事業」では、ICTの利活用が進まない原因究明と生産性の向上や働き方改革につながる導入メリットを提示・支援を行う。

想定する専門家：ベストブレイン浜松所属コンサルタント

○令和3年度の取組・成果

○ (ア) 登録専門家による個別相談会

・当所の登録専門家による個別相談を21回開催し、経営課題解消策のアドバイスや各種経営計画の策定指導を実施した。

○ (イ) 経営支援システム (BIZミル) の活用促進、商圈分析ソフト (マケプラ) の導入及び活用

・「BIZミル」「マケプラ」によるビッグデータ活用にあたって、入力項目が多く入力の時間を捻出することができなかったため、活用まで至らなかった。

支援先数 8社、各種計画サポート 2件

○ (ウ) ものづくり企業の経営課題を解消する「ものづくりドック」開催、生産性の向上及び働き方改革達成事業「ICT活用支援事業」開催し、1社あたり、3～5回の支援を行った。

・地元在住の経営コンサルタント集団「ベストブレイン浜松」所属の複数専門家によるチームコンサルティングの経営指導を受けて、小規模企業の①製造業が抱える経営課題の解消策や②ICTの利活用が進まない原因究明とその解決策を提案した。

○今後の課題・方向性

【課題】

○事業計画申請時における個別相談の内容や解決方法提案までのアプローチが抽象的であるため、個別相談の回数が見通しが立ちにくく、また予算の都合から、本来重点的に行うべき、複数の登録専門家による経営計画策定支援 (経営課題の発掘や見える化) が小規模化してしまう課題が発生している。

○経営者の多忙による個別相談キャンセルや経営者と従業員・スタッフ間の経営課題に関する認識のズレや当初に設定した解決策目標のハードルを下げざるを得ない場面もあり、登録専門家の支援機会が十分に生かしきれなかった。

【方向性】

○小規模事業者は、定期的な経営コンサルティングを外部依頼するケースは少ないので、本補助金事業により、継続的な経営相談の場を持つことは事業活動を円滑に開始するうえで効果的であることから、定期的な連絡を通じ状況を確認することで本事業に充てられるようにしていきたい。

○各取組の達成度

[評価基準：順調 😊 概ね順調 😊 一部改善 😊 要改善 😞]

○目標の達成度

[評価基準：達成 🏃 好調 🏃 適切 🏃 低調 🏃]

指標名	現行 R1	R2	R3	R4	R5	R6	目標値 R7	評価
(ア) 専門家個別相談 (事業計画策定)	40回	25回	27回	29回	31回	33回		🏃
(イ) BIZミル/マケプラ		30社	24社	-	-	-		🏃
		30社	8社					🏃
(ウ) ものづくりドック	3社	3社	3社 → 2社	事業見直しとリニューアル				🏃
		3社	2社					🏃
(ウ) ICT活用支援事業	なし	4社 → 3社	4社 → 2社	4社	事業見直しとリニューアル			🏃
		3社	2社					🏃

概ね順調
(3点)



(総合評価の理由)

○補助金申請の減額要請により、対象企業数を減らさざるを得なかったが、伴走型補助金事業の根幹をなす内容であり、参加した小規模企業からの成果に対する満足度や期待感が高いため、総合的に判断し「概ね順調」と評価した。

○但し経営資源が限られている小規模事業者に必要な限り寄り添った事業とすることが求められることから一部改善の余地がある。

2. 事業策定後の実施支援に関すること

○事業内容

(ア) 登録専門家によるフォロー個別相談会 (20回)
 支援内容：過去の補助金事業参加者を中心に、コロナ禍の影響による経営課題を訪問
 ヒアリングやブレーストーミングにより明確化し、マーケティング計画の
 再構築や今後の対策のマッピング化、現状を打開する新規企画提案を行って
 いく。

○令和3年度の取組・成果

○ (ア) 登録専門家によるフォロー個別相談会 (20回)
 ・昨年度の伴走型補助金事業への参加事業所の中から、登録専門家と協議をして、フォロー個
 別相談会を開催した。結果としては、課題解消を目指す継続支援の回数が増えて、計画 (申
 請) 時は15回のところ、最終的には20回の実施となった。
 ・2年続けての登録専門家による継続支援により、新たなる経営課題が発掘されると共に、R2
 年度に問題点となっていた経営課題の解消も見られ、経営環境が改善された。
 実施回数：1社につき5～9回、支援先数：3社

○今後の課題・方向性

【課題】


○限りある予算内での事業運営になるため、既存案件の継続的な相談が増え始めたこと
 から、新規案件の相談機会が減少する可能性がある。相談機会の公平性確保が今後の
 課題となる。
 ○売上・営業利益・経常利益などの財務データの進捗管理を行っているが、短期的な相
 談で終了してしまった場合、経営課題の解決が図られているか検証をすることが困難
 である。

【方向性】

○個別相談会のあり方を専門家と意見交換しながら、特定の事業者に偏っている支援回
 数等の基準の策定を検討してみたい。

○目標の達成度

[評価基準：達成  好調  適切  低調 ]

指標名	現行 R1	R2	R3	R4	R5	R6	目標値 R7	評価
(ア) 食品開発ブラッシュ アップ支援事業 (計画書)	3社	3社 3社	3社 -	事業の見直しとリ ニューアル				
(ア) 登録専門家による フォロー個別相談会 (申請書)			15回 20回					

○各取組の達成度

[評価基準：順調  概ね順調  一部改善  要改善 ]

概ね順調
(3点)



(総合評価の理由)

○新型コロナウイルス感染症の影響を考慮はしなければならないが、
 個別相談会のあり方や本事業における財務データの進捗度の評価す
 る基準が未整備で、経営課題が確実に解消されているかシビアに検
 証する必要があることから、一部改善の余地がある。
 ○登録専門家による継続支援により、既存の経営課題の解消が図られ
 経営環境が改善されたほか、新たなる経営課題が発掘されることで
 企業の成長を促すことができたため、総合的に判断し「概ね順調」
 評価とした。

3. 新たな需要の開拓に寄与すること

○事業内容

[(ア) 小規模事業者が参加する展示会・商談会の開催]

次の(1)から(3)までの展示会・商談会への参加を通じ、小規模事業者の自力かつ自主的に販路拡大を実施できる実行力を身に着ける機会とする。

- (1) 日本商工会議所feel NIPPON展示会ブース出展
- (2) 静岡県内15商工会議所合同個別商談会参加
- (3) 静岡県よろず支援拠点との合同ミニ商談会

○令和3年度の取組・成果

○ (ア) 小規模事業者が参加する展示会・商談会の開催

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大影響により、本補助金を使つての展示会参加や商談会及びビジネスマッチング会の実施は初めて行わなかった。

○今後の課題・方向性

【課題】

○ (伴走型補助金事業に限らず) 当所全体としての販路開拓支援メニューが不明確で、定期的な事業実施ができていない。




○ 管内小規模事業者は、自らは商品開発やサービス提供はできるが、ブランディングや販路拡大等のマーケティング力が脆弱であるため、当所の伴走型支援として、バイヤーとの商談会や展示会・ビジネスマッチング会への参加サポート強化が課題となる。

【方向性】

○ 日本商工会議所地域振興部が手掛けるfeel NIPPONや静岡県よろず支援拠点との合同ビジネスマッチング会等の事業企画や参加は、運営面で効率的であるため、引き続き支援の継続していきたい。また今後を見据えて、越境EC等ネットサービス強化も検討してまいりたい。

○目標の達成度

[評価基準：達成  好調  適切  低調 ]

指標名	現行 R1	R2	R3	R4	R5	R6	目標値 R7	評価
日本商工会議所feel NIPPON	4社	5社 0社	5社 0社	6社	6社	7社		
静岡県内15商工会議所合同個別商談会	4社	5社 中止	5社 中止	6社	6社	7社		
静岡県よろず支援拠点との合同ミニ商談会等	10社	10社 6社	10社 中止	10社	10社	10社		

○各取組の達成度

[評価基準：順調  概ね順調  一部改善  要改善 ]

要改善
(1点)



(総合評価の理由)

○ 令和3年度の伴走型補助金事業としては、新型コロナウイルス感染症の拡大影響により、事業企画はしなかったが、過去に参加実績のある会員企業が国内大型展示会や商談会及びビジネスコンテストに参加した結果、上位入賞や海外にて販路開拓の機会を得た事例もあるなど、経営発達支援計画での目標とする新たな需要の開拓につながった実績があることから、定期的なイベントの開催やサポート強化体制の整備など、総合的に判断し「要改善」と評価したい。

4. 経営指導員等の支援能力向上等に関すること

○事業内容

[(ア) 経営指導員等研修会の開催]

- ・ 支援内容：日本商工会議所が提唱する「スマートCCI」構想に伴うICTリテラシー向上研修、経営指導員の業務能力向上や研鑽に必要な知識・技術研修
- ・ 想定する専門家：当所登録専門家、ICT分野や研修希望分野の専門家
- ・ 実施回数：2回～3回
- ・ 実施場所：当所事務所並びに会議室
- ・ 構成メンバー：当所経営指導員等、講師の登録専門家等

[(イ) 経営分析ソフト「BIZミル」及び市場分析ソフト「マケプラ」研修会の開催]

支援内容：経営分析ソフト「BIZミル」並びに市場分析ソフト「マケプラ」の更なる活用や利用促進につながる操作研修

- ・ 想定する専門家：(株)エイチ・エーエル (BIZミル)
日本ソフト販売(株)他 (マケプラ)
- ・ 実施回数：2回～3回
- ・ 実施場所：当所事務所並びに会議室
- ・ 構成メンバー：当所経営指導員等、講師輩出企業

○令和3年度の取組・成果

○ (ア) 経営指導員等研修会の開催

- ・ R3年度は、4回の開催を実施し、うち3回分を伴走型補助金を使って実施した。研修会で実施したテーマは、①ICT活用②組織コミュニケーション活性化③中小企業基盤整備機構の活用④BCP（自然災害と感染症の2分野）と事業継続力強化支援計画を取り上げた。
- ・ R2年度に実施した、友好提携商工会議所との交流継続も視野に入れて、上記③のテーマについては、オンラインツールを使った合同研修会の形式でも実施した。

○ (イ) 経営分析ソフト「BIZミル」及び市場分析ソフト「マケプラ」研修会の開催

- ・ R3年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大影響による登録専門家の個別相談会の設置回数が計画時よりも増加し、当初予定していた専門ソフトの研修会は見送らざるを得なかった。



○今後の課題・方向性

【課題・方向性】

- 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う急激な環境変化や既存の研修の中止などが発生したことから、袋井地域が抱えるテーマや組織内人事異動の円滑化、若手職員のスキルアップを視野に入れた独自の所内研修会の継続を検討し、地域産業の課題解決を図っていくことが必要である。
- 各種対面型研修が中止になったことから、コロナ禍でも実行できる友好提携先の商工会議所（釜石・東海）との事務局内コミュニケーション強化をはかるべく、オンライン合同研修会の実施をしていく。
- ICTリテラシーやデジタル技術の習得による経営支援能力の向上が課題であることから、各種業務ソフトの操作習熟、データ収集能力やその解析力の強化を図っていく必要がある。

○目標の達成度

[評価基準：達成  好調  適切  低調 ]

指標名	現行 R1	R2	R3	R4	R5	R6	目標値 R7	評価
経営発達支援計画には数値目標なし								
友好交流提携商工会議所との交流（WEB交流）		3回	0回					
		3回	1回					
経営指導員等研修会（BIZミル・マケプラ研修会含む）		4回	4回					
		4回	4回					

○各取組の達成度

[評価基準：順調  概ね順調  一部改善  要改善 ]

概ね順調 (3点)



(総合評価の理由)

○新型コロナウイルス感染症の拡大影響により、補助金事業で従来実施してこなかった自前の職員向け研修を実施できる機会が創出され、これまで個人レベルでの自主研修に留まっていたICTリテラシーやデジタル技術の向上が図られた。また、オンラインを活用した友好提携先の商工会議所との交流も可能となり、総合的に判断し「概ね順調」と評価した。

5. (参考) 経営発達支援事業の評価・見直しを行う事業に関すること

○事業内容

(ア) 経営発達支援計画事業推進協議会の開催

支援内容：第1期経営発達支援計画での事業評価委員会を継承して、R2年度の伴走型小規模事業者支援推進事業補助金で実施された各事業の評価を中心に、当所の経営発達支援計画に記載された事業内容全般や事業の進捗状況確認、次年度における補助金事業への要望や期待感を聞く機会創出の場を形成する。

想定する専門家：当所登録専門家等

構成メンバー：経営発達支援計画事業推進協議会の事業評価委員は、袋井市行政関係者、県内金融機関関係者、県内産業支援機関関係者、登録専門家等で構成する。また、経営発達支援計画事業連絡会議は、当所と袋井市産業政策課の担当で構成し、協議会に諮る案件を企画立案・整理していく。

○目標の達成度

[評価基準：達成  好調  適切  低調 ]

指標名	現行 R1	R2	R3	R4	R5	R6	目標値 R7	評価
参考事業のため指標なし								

○令和3年度の取組・成果

○(ア) 経営発達支援計画事業推進協議会

実施回数：①経営発達支援計画事業推進協議会 2回

②経営発達支援計画事業連絡会議 2回 合計 4回

- ・事業評価委員が成果や進捗度を評価する5か年の第2期経営発達支援計画事業や伴走型小規模事業者支援推進事業補助金のR2年度事業実績の評価方法と審査する評価シートを袋井市総合計画の事業評価方法並びに書式をベースに一新した。
- ・新型コロナウイルス感染症の拡大影響にあっても本計画事業が前に進むように、オンラインツールを使用した会議運営を取り入れ、事業評価委員の本補助金事業への更なる理解周知をはかった。
- ・事業評価委員の評価意欲や事業への理解度を深めた審査をしてもらうために、評価してもらう当該年度の本補助金事業に参加した事業所関係者や、関係事業にて実際に経営支援を行った登録専門家にも会議に同席してもらい、当所の伴走型支援スタイルやその内容に踏み込んでの協議深耕及び充実を依頼した。

○今後の課題・方向性

【課題・方向性】

OR2年度の事業参加者や支援した専門家と、事業評価委員が意見交換することが出来、当所が目標とする経営発達支援計画事業や当該年度で事業採択を受けた伴走型補助金事業の実態を把握してもらっての事業評価をしていただいた。引き続き、事業推進協議会等の運営は、このスタイルを踏襲したものとしていきたい。

○袋井市産業政策課とは、商工業や地域振興施策で事業協働や意見交換をする機会が多いため、この事業推進協議会の運営を早く定期開催化させて、市内企業のランク別された経営課題の解消策や新たな視点での地域振興策の企画立案が出来る会議運営の成果が持ち帰れる事業進捗を図っていく。

○各取組の達成度

[評価基準：順調  概ね順調  一部改善  要改善 ]

(参考)

(総合評価の理由)

○袋井市総合計画の審査形式や関連書式を参考に、①第2期経営発達支援計画にうたっている各種事業の5か年推移の見える化、②単年度(令和3年度)の伴走型小規模事業者支援推進事業補助金で実施された各計画事業の実施成果のチェック、③事業評価委員が評価しやすい体制の維持を今後も継続してまいりたい。